

神様のプレゼント(出エジプト記 23:14-17)

一生懸命に信仰生活を頑張っていました、疲れ果てて倒れる信者が少なくありません。だから逆に、まあ適当にしていんじゃないかという思いで、ギリギリ教会から離れない程度の適当な信仰生活をする人もいます。それで限界にぶつかることになり嘆いてしまいます。なぜ信仰生活なのに疲れて、また限界を見ることになるのでしょうか。それはその人が信仰生活そのものを誤解しているからです。信仰生活は一生懸命頑張ることではありません。だからと言って、適当に何かパスすればいいようなことでもありません。それは今までの宗教に慣れていて、その名残を惜んでいるからではないでしょうか。キリスト教の信仰生活というのは、神様から与えられたプレゼントが何か分かって、心からそのプレゼントを喜ぶこと、それこそが信仰生活です。しかも神様から与えられたプレゼントなので、無償でただ信仰によってそれを自分のものとして喜んで味わうようになることが信仰生活です。そうすると、それが実を結び、自分の方に答えとして現れますので、その結果、この喜びと祝福を知らない人々にお知らせしたい、伝えたいという気持ちになります。だから、その気持ちを祈りに変えて祈るようになるでしょう。その祈りが答えられると、本当にこの素晴らしい神様のプレゼント、この喜びを伝える機会が許されます。それを伝道と言います。自分で目標を定めて一生懸命頑張ることが伝道ではなくて、私の内側に神のプレゼントによる喜びに溢れ、あまりにも凄い、あまりにも素晴らしいものなので、当たり前にお話ししてあげたいなという気持ちになるのが当然でしょう。それが祈りに変わり、その結果、与えられる祝福を福音宣教、伝道と言います。なので今日、収穫感謝礼拝をささげる兄弟姉妹の皆さんは、神様が私たちにいったいどのようなプレゼントを与えられたのか、そのことについて聖書を通して教えられたいと思います。もちろん、数多くの、数え切れないほどのプレゼントが与えられました。けれども、聖書はそれを大きく三つに分けて、私たちが勝利して最高に輝く人生を歩ける神様の素晴らしいプレゼントを与えられましたことを確認して行きましょう。そのためにまず旧約聖書には、年に三度、わたしにいけにえをささげなければいけないと示されていました。それがただ行事を行うための命令ではなくて、神様が私たちに絶対に必要なこのようなプレゼントを約束して与えられる方ですよということを知らせることなのです。今でもユダヤ人たちはその意味が分からなくて、この行事を一生懸命守っているのですが、神様のプレゼントに対しては全く無知な状態です。その結果が今、私たちが目の当たりにして見ているいろいろな現象、現状です。

1. キリスト

それでは神様は私たち人間にどのようなプレゼントを与えられたのでしょうか。いうまでもありません。神様が私たち人間のために与えられたプレゼントはキリストです。キリストをプレゼントして与えられました。

なぜなのでしょう。なぜ神様はキリストを与えないといけなかったのでしょうか。その理由についてよく分かっていないと、そして、それを自分のこととして認めない限りは、神様がプレゼントを与えられたにもかかわらず、それがそんなに嬉しいものにはなりません。皆さんに誰かがプレゼントをくれました。でもそれがあまり好きなものではない、あまり自分に必要な物でない場合には、そんなにうれしくないのです。でも、プレイステーション4が欲しいなあと思っていたときに、お父さんが願ってもないのにそれを買ってきました。非常に喜ぶでしょう。自分に必要な物だから。それがプレゼントです。クリスチャンなのに、教会で礼拝をささげているのに、神のプレゼントがそれほど私にとって喜び、嬉しいことではないのでしょうか。なぜなのかを吟味しないといけません。もしそれが飛び跳ね上がるほど、また世界中のどのようなプレゼントよりも感謝で喜びになっていないと、実は信仰生活はなかなか難しいです。また今まで通りに宗教的に頑張るしかありません。それで途中であきらめるしかありません。なぜ神様は私たちに宝くじではなくて、キリストをプレゼントとして与えられたのでしょうか。

1) ローマ 8:2、ヨハネ 8:44、エペソ 2:1-3、ローマ 3:23

その理由は、聖書の他には教えられるところがありません。聖書のローマ 8:2 を見ますと、私たちは自分なりに幸せのために一生懸命頑張るつもりなのですが、それ以前に根本的に神様を離れて、罪によって

死と罪の原理に囚われていると言われていました。わかりやすく申し上げますと、滅びの運命に囚われて地獄に向かっています。それはハーバード大学を出ても、国会議員になったとしても、自分の夢が叶えられたとしても、全く解決にはならない霊的な問題です。根本の問題です。死と罪の原理に囚われているということは、誰も認めたくないでしょうけれども、ヨハネ 8：44「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者」と言われる、悪魔に支配され、悪魔の奴隷になっている状態なのです。誰も気づいていません。だから聖書はこのようにその状態を私たちに知らせています。エペソ 2：1-3「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。私たちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした」。これが聖書が私たちに語っている人間の真相というものなのです。だから、神様が約束されました。救い主キリストの他には解決の道がありません。私たち罪人である人間を愛していらっしゃる神様は、だからこそ私たちが願っているものではなくて、私たちに絶対に必要なキリストをプレゼントされました。誰がこのような大変な状態なのでしょう。私たちは人間的に比べて特別な人がこんなのだろうとつい思うでしょうけれども、聖書は「すべての人は、罪を犯したので、神からの榮譽を受けることができない」（ローマ 3：23）と宣言しています。人それぞれ比べるのは人間のレベルであって、神の前ではみなキリストが必要な罪人なのです。

2) 努力、真っ直ぐ、宗教、超越の力

しかし残念ながら、人がこのようにキリストのプレゼントでなければ希望のない存在だということがわかっていないので、未だに一生懸命努力すれば良い人生になるだろうと思っているのです。嘘をつかないで真っ直ぐに正直に生きていけば良い人生が待っているんですよと、そのように信じて頑張っています。もちろん悪いことではありませんが、それで変わるような問題ではありません。それでもあれでもうまくいかないで宗教に頼ろうとしたり、あるいは超越の力、超能力的な力を借りてどうにかしようというようにもさまよっています。なぜなのかと言いますと人間にどのような問題があり、何が必要なかが分かっていないからです。残念なのは教会に通っている信徒でも聖書を守ろうという思いもありますが、人間の真相が聖書が教えてる通りに霊的に正しく理解できていないので、宗教人と全く同じ感じで信仰生活をする場合があります。

3) マタイ 11:28-墮落と快樂

その結果、イエス様がおっしゃったその通りにマタイ 11：28「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は」と言われるように本当に疲れてしまうようになります。疲れてしまうので、その後、何もかも諦めて快樂に溺れるか、あるいは墮落に走るか、どちらかの道に行くしかありません。

4) 創世記 3:15、イザヤ 53:5-6、ローマ 5:8、ヨハネ 19:30、

このようなことを一番よくご存知の神様が人を愛して約束されました。キリストを送るよと。創世記 3：15、一番最初から女の子孫が生まれて蛇の頭を踏み砕く、これがプレゼントなのです。何が問題で誰かのせい、何かのせいとみなが思っていますが、実はその裏に目に見えないもののしわがあるわけです。蛇の頭を踏み砕くことでなければ人の問題は解決になりません。それができるのは、女の子孫として来られるキリストの他にはありません。真の王様として偽物の王、世の神を打ち砕くキリストの他には解決の道はありません。そのキリストを約束されました。それでイザヤ 53：5-6を見ますと「しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために砕かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた」。このキリストが私たちの身代わりとして十字架で犠牲のいけにえになることによって私たちは解放され、自由になることができるわけです。このキリストがプレゼントとして与えられて、そのキリストによってどうなるのかと言いますと、ローマ 5：8、滅びるしかなかった私たちが、あなたがたの父は悪魔だと言われるしかなかった運命に囚われていた私たちが、「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます」。このようにキリストが私たちにプレゼントされました。そのキリストが十字架の上でこのように宣言されます。すべてを「完了した」と（ヨハネ 19：30）。

滅びの運命から解放されるすべてを完了した。罪人愛して罪人のためにキリストを送ってくださった、その神の愛がすべて実現された、完了したと宣言されました。神様が私たち人類のために与えられた最高のプレゼント、それがキリストなのです。そのキリストが私のためのプレゼントとして心からの喜びになり、嬉しくて嬉しくてしょうがないプレゼントになっている人が、自分がどうのこの、過去がどうのこのに囚われることなく、このキリストに集中して味わうようになるでしょう。自分自身も喜ぶようになります。

5) ヨハネ 3:16

皆さんもよくご存知の聖書の箇所が、このキリストのプレゼントを一番代表的に示しています。ヨハネ 3:16「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、（信じないと滅びるから）永遠のいのちを持つためである」と宣言されました。この神様から与えられた最高のプレゼント、キリストをどのようにして私のものとして喜んで受け入れることができるのでしょうか。イザヤ 55:1には「ああ。渇いている者はみな、水を求めて出て来い。金のない者も。さあ、穀物を買って食べよ。さあ、金を払わないで、穀物を買ひ、代価を払わないで、ぶどう酒と乳を買え」。代価などありません。無償で与えられたプレゼントなのです。なぜでしょうか。それを価値で計算すると計算ができないので、私たちには払える能力など 1mm もないものなので神様は無償で与えられました。その価値が無限なので。それで私たちは神様から与えられたこのキリストというプレゼント、蛇の頭を踏み砕いて、私たちのすべての咎と罪をきよめられて、私たちを新しく造り変えることができるこのいのちのプレゼントは、ただ信仰によって受け入れることができます。あなたがたに告げます。「受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権」（ヨハネ 1:12）が与えられると言われているわけです。このキリストという神様からの最高のプレゼントが人類に約束されていることを忘れてはいけませんということで、旧約のときには過越の祭りを守りなさいと言われていたわけです。祭りを守ることが目的ではありません。あなたがたにはキリストが必要なんだ、神はあなたがたのためにキリストを与えられたんだよ。そこにすべての問題の解決。すべての希望がそこにありますよと。これを忘れてはいけませんということでした。今までどんなつらいことがあり、自分ではどうにもならない深刻な不可能だと思ふような問題や病などがあつたのでしょうか。そのためにキリストが必要なのです。キリストはそのすべてを解決なさって、死と罪の原理から解放させました。問題や過去、自分自身を見て囚われることなく、そのすべてをひっくり返すために送られてきた神のプレゼントであるキリストにフォーカス合わせ、キリストを喜んで、だからキリストを送ってくださったんだ。私にはキリストが絶対に必要なのですという思いで喜んでキリストを受け取るようにしましょう。皆さんにとってキリストがどれほどの喜びで、どれほどの嬉しさなのでしょうか。それを問いかけてみましょう。それが信仰生活のスタートなのです。

2. 聖霊

そして神様はそこで終わることがありません。この最高のプレゼントを神の御子キリストを送られて、そのキリストを受け入れたひとりひとりの信者に、神様は聖霊のプレゼントを約束して与えられました。これが最高のプレゼントなのです。

私たちは目に見えるものばかり求めています、目に見えるものがどれほど豊富であっても、目に見えない力がなければそれが全部わざわざいに変えられてしまいます。神様は信者のひとりひとりに、キリストを持っている者に聖霊のプレゼントを約束されました。なぜなのでしょう。

1) 肉、限界、世の流れ、サタン攻撃

イエス・キリストを受け入れて、新しく生まれたにもかかわらず、天国に行くまでこの地上にいる間には肉を持つままなのです。そして、自分という限界の中を生きていかないといけません。さらにクリスチャンに対して悪魔サタンが作り上げた世の流れ、世の風習、世のさまざまな思想などによる攻撃が終わりません。サタンの攻撃がずーっと続くようになります。それが怖いわけではありませんが事実なのです。こういうわけで神の最高のプレゼント、キリストを受け入れた信者に、神様はさらに豊かにいのちの泉が湧き起こるように聖霊をプレゼントとして与えられました。

2) ヨエル 2:28-29、ヨハネ 14:26-27、ローマ 8:15-16、26-27、ガラテヤ 5:18-23

それは旧約の時から預言されていた内容です。ヨエル 2:28「その後、わたしは、わたしの霊をすべての人に注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、年寄りも夢を見、若い男は幻を見る」と言われています。それでイエス様ご自身もおっしゃいました。ヨハネ 7:38-39「わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになる。」これは、イエスを信じる者が後になってから受ける御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである」。旧約の預言通りにイエス様ご自身も預言して、そして初代教会が二階の間に集まって祈っていたときに、これがその通りに成就して実現されました。なぜ目に見えないからといってイエス・キリストを信じますと言いながらこれは信じないのでしょうか。だからイエス・キリストを信じて感謝しながらも、その後は自分の力で頑張るわけです。それで思いは良い思いでしょうけれども、限界にぶつかって迷いつつ、また疑問だらけの信者になって、結局は二重生活をするようになるしかありません。それを克服していかないとはいけません。信仰生活は自分の力で頑張ることではありません。神様がイエス・キリストを信じる人に限って、このように肉眼には見えないけれども聖霊のプレゼントを約束されました。ヨハネ 14:26-27、聖霊が与えられるときにどうなるのでしょうか。「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます」。神のみことばが分かるようになります。人間の IQ が良いから聖書を理解できるわけではありません。とんでもありません。聖霊が注がれることによって、ただ形式的に礼拝を守るのではなくて、メッセージが聞こえてきて、神の御声が聞こえて来るようになります。神の御心が何か求めるようになるし、それが理解できるようになります。問題が起きるから問題に溺れるのではなくて、そこで神のみことばが聞こえてくるのです。今週、講壇のメッセージを通して何が語られていたのか。それとこれとどういう関係があって、だから私にどのような契約を語っていらっしゃるのか、それが聞こえて来るようになります。聖霊が注がれるから。そして「わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません」。聖霊が注がれると、世の中のどのような条件、状況、環境によっても奪われることができない平安を保つことができるようになります。アップアップ、バタバタしない信者になります。なぜ不満だらけで、なぜいつも不安だらけなのでしょう。この聖霊のプレゼントに興味がありません。全部自分なのです。キリストによって救われたことを感謝することはせめてもの幸いなのですが、そこ止まりなのです。そのあとはまた自分なのです。すべてが。聖霊がプレゼント、最高の最高のプレゼントです。四方八方から苦しめられても窮することがない、死、裸、迫害、苦難、苦しみ、どんなものでも圧倒的に勝利できるように聖霊が注がれると、その聖霊の力によって守られて導かれることになります。これが聖霊のプレゼントなのです。ローマ 8:15-16「あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父」と呼びます」。神様のことを何か良い信仰者かのように、すごい厳粛な雰囲気です。「神様」と呼ぶ人も多いですが、もちろん必要なのでしょうけれども、神様は恐れるのですが恐れ敬う方であって、ただ恐怖の対象ではありません。キリストによって神の子どもになり、聖霊が注がれると神様のことを目の前で真っ直ぐに「アバ、父」と呼ぶことができるようになります。これが信仰生活なのです。遠くにいらっしゃる偉大なる誰かに声をかけるような、そういうことではありません。どこかの伝統的な宗教の名残りを抜け出すことができないままキリスト教会が建てられた場合、(まるでカトリック教会のように。どこかを批判するつもりはありませんが)キリスト教と言いながらもユダヤ教に戻っちゃったのです。だからユダヤ教が神を恐れるような感じなのです。キリストは小さな赤ちゃんになっています。キリストは復活の主、万軍の王なのです。だからこそ聖霊を注がれることができます。神の右の座に座っていらっしゃる方なのです。聖霊が注がれることでこのように「アバ、父」と神様との間に隔てるものなど一切壊れて消えてなくなります。それでローマ 8:26-27 を見ますと、「御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください」。もし私たちが祈ることができないほどダウンしていても、聖霊様が私たちのためにとりなしの祈りをしていらっしゃいます。だから私たちが究極的に滅びることがないように守ってください。それが聖霊が注がれることなのです。そして、それは消極的な聖霊の働きであって、ガラテヤ 5:18-23、ちょっと長いですが「しかし、御霊によって導かれるなら、あなたがたは律法の下にはいません。肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみ、醜悪、遊興、そういった類のものです。前

にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言うておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法はありません」。法律などに縛られて動かされるものではなくて、聖霊が注がれると、神のかたちが生かされて、それが表に現れることとなります。その内容です。道徳的な何かの基準の話ではありません。神の品性がある人を通して現れることとなります。自分が損する時でも譲る場合もあります。損得が基準ではないので。これが神様がキリストを受け入れた人に与えられる聖霊のプレゼントです。この聖霊のプレゼントを Only になって喜んで嬉しく嬉しくて求めるべきではないでしょうか。

3) 使徒 1:7-8、14

この聖霊のプレゼントによって使徒 1:7-8 を見ますと、いよいよこの地上を歩いているときに、人間の本来の役割、イエスの証人となることが出来ます。聖霊が注がれると不可能な状況の中で、地の果てにまでイエスの証人、いのちの証人になることが出来ます。なぜでしょうか。聖霊のプレゼントによって。これが聖霊のプレゼントです。キリストを信じている皆さんに神様が与えられました。どのようにしてこれを自分のものとして喜んで味わうことができるのでしょうか。この内容を理解していた初代教会の人々は、二階の間に集まって、使徒 1:14 を見ますと、祈りに専念していたと書いてあります。何も代価などはいりません。これも同じ無償なのです。ただ信仰によって求めればいいのです。私のためのプレゼントだと信じて。そして私に今絶対必要だと思って。成績が上がることより、会社に就職することより、健康が保たれることより大切なのはこのプレゼントなのです。そういう理解とそのような意味合いを持たないといけません。それで祈れるようになります。何を求めて祈っているのでしょうか。何を食べるか、何を飲むかを祈っていらっしゃるのでしょうか。だから何を飲むか何を食べるかももうまくいかないのです。それを求めるから。神の国と義を求めなさい。そうすると、それは加えて与えられるものなんだ。サブとメインをしっかりと見分けることができるようにとされています。

3. 救われるたましい

そして、キリストを受け入れて、聖霊の賜物、プレゼントを受け入れて、それを喜んで味わっている者に神様はどのようなプレゼントを用意していらっしゃるかと言いますと、救われるべきたましいをプレゼントとして用意しています。

これこそ生きる理由であり、生きてる間に私たちが残すことができる最高の作品です。事業を営むことも就職してその専門性を生かして花を咲かせることなどもメインではありません。救われるべきたましいが自分を通して教会を通して救われることのために許されるツールなのです。神様はキリストのプレゼント、聖霊のプレゼントを自分のものとして喜んで味わっている者に、必ず神様の目的、歴史が終わらないで動いている目的である救われるたましいをプレゼントして与えられます。これが伝道なのです。がんばって何かのテクニックで行うものではありません。

1) ニコデモ、サマリヤの女、38年病者、ザアカイ

例えば、聖書に紹介されている、名誉、富、知識、全部持っていても心の中に穴が開いていてどうしようもないニコデモのような人が用意されています。それからサマリヤの女の人のように、人生そのものが完全に粉々になり人を避けて生きていくような人が救われるために備えられています。ベテスダと呼ばれる池の隣に 38 年間治らない不治の病を抱えて迷信に頼ろうとしているような人々が救われるために用意されています。人々に指を指されて売国者と言われて、しかし、お金にすべてかけてお金の奴隷になって生きてるザアカイのような人間が備えられているわけなのです。キリストのプレゼント、聖霊のプレゼントを本当に喜んで、絶対必要として告白して、自分のプレゼントとして喜んで味わっている者には、このような人、たましいが起こされます。

2) ヨハネ 10:27、使徒 13:48

イエス様はヨハネ 10:27 でこう言われています。「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます」。言葉を変えますと、イエス・キリストの

羊と言われるものが必ず備えられていて、いつなのかと言いますと、信者の私たちが神のプレゼント、キリストと聖霊様のプレゼントを喜んで味わっているときに、その時刻表は動きます。彼らが飢え渴いた思いになってキリストを求めてくるようになります。また使徒 13：48 にもこういう風に表現されています。「異邦人たちは、それを聞いて喜び、主のみことばを賛美した。そして、永遠のいのちに定められていた人たちは、みな、信仰に入った」。私たちは誰が誰か分かりませんが、永遠のいのちに定められている人がいるのです。そういう人々が起こされて来るようになります。いつでしょうか。私たちが神のプレゼントを喜んで必要として感謝して味わうときです。そこに今までの言い訳などは一切消えてなくなります。できる、できないといった次元の話ではありません。

3) 使徒 1:8(証人)

それで先ほども申し上げましたように、地の果てにまで証人となると言われることになります。救われるたましいが私たちに起こされるために、キリストのプレゼント、聖霊のプレゼントを味わっている人に神様は新しい身分とその身分にふさわしい権威を回復してくださいます。なぜそういう人々が起こされるかと言いますと、信者の私たちがこの地上にいながらも御座の祝福を味わうことができる身分になりました。それが悟れるようになります。だから当然、この地上を支配している、そのたましいを抑えている暗闇の勢力を打ち砕いて縛り上げて、そして神の国のことがなされるように目に見えないけれども神の御使い、天使が動員される権威が回復できるようになります。これがプレゼントなのです。なかなか礼拝をささげながらも信じる顔ではありません。目に見えることだけに慣れているからです。もし目に見えることだけにこだわると信仰とは言えません。信仰は目に見えない事柄の保障であり、目に見えない霊の世界がメインなのです。神様ご自身が主人なのです。目に見えないけれども。それで神様はキリスト、聖霊をプレゼントとして与えられて、そういうクリスチャンひとりひとりに向ってこのように宣言しています。あなたがたは世の光なんだと。身分と権威があるから。キリストのからだなる教会。その信者、教会を通してキリストが流れるのです。だからからだと言われているのです。そして、キリストの新婦である教会と言われています。聖書は新郎、新婦が結婚すると一つになるというのがメインの強調なのです。新郎、新婦の一番のテーマはそれなのです。それからあなたがたは聖霊が宿る神の神殿であることを分かっているのか。この暗闇の世に向かっては王である祭司と言われる者になりました。だから救われるたましいが起こされるようになります。

4) 私の現場(現場教会、やぐら)、わざわいの地、黄金漁場

その神様が用意されたプレゼント、救われるたましいはどこに用意していらっしゃるのかと言いますと、遠くの国の前に皆さんが今いらっしゃるその現場です。だから、ひとりひとりの信徒は教会に集まって礼拝をささげますが、現場に散らされると現場の教会となります。現場のやぐらとして立たされます。そして、誰も見向きもしないわざわいの地、そこに用意されています。そして黄金の漁場があります。

5) 47、237、5000

そういうところに備えられていて、結局は日本の 47 都道府県、一千の大学、237 国、5000 未伝道種族の中にこのような救われるべきたましいが備えられていて、私たちにプレゼントとして用意されているということを知ることを信仰です。信じて祈れば、あとは神様がなさいます。

6) 使徒 18:9-10

使徒 18：9-10 を見ますと、「ある夜、主は幻によってパウロに、「恐れないうで、語り続けなさい。黙ってはいけない。わたしがあなたとともにいるのだ。だれもあなたを襲って、危害を加える者はない。この町には、わたしの民がたくさんいるから」。たくさんいるとあるのに、私たちはほとんどどこか全然いないと思ってるでしょう。霊の目が開かれて、いつそれが信じられようになるのでしょうか。キリストのプレゼントを喜んで、そのキリストにおいて人生の答えを出して、聖霊のプレゼント味わうことで自分を超越できる力に預かるようになったときに、神様はこの目を開いてくださり、「なるほど、私の町には神の民がたくさんいるんだ」ということに気づくようになります。

7) 御国のいのちの書に

そして、聖書にはこのようなたましいが神の国のいのちの書に名前が記されると言われています。いわば天

の倉庫に収められるということでしょう。これこそが収穫祭のメッセージです。聖霊のプレゼントこそが五旬節の意味です。初穂の刈り入れ祭の意味なのです。今日は全部読みませんが、聖書を見ますとモーセもいのちの書、ダビデもいのちの書と言いました。パウロもピリピ 4:3 にいのちの書という言葉を使い、黙示録 3:5、21:27 等々にもいのちの書、いのちの書と。そこに名前が記されているということです。皆さんが地上の間に神様が用意されているプレゼント、皆さんを通して救われたたましいの名前が天のいのちの書に記されることとなります。それこそが収穫祭なのです。食べ物や果物、穀物をここに置くというのが収穫祭ではなくて。このように神様は信者の私たちに完璧なプレゼントを与えられました。

結論を申し上げます。なので、この神様のプレゼントを前にして、自分は本当に希望のない罪人だということを心から認めるようにしましょう。それでそこに必要なプレゼントは他に何もないので、今までこだわってきたすべてを切り落として一つだけ、キリストという最高のプレゼントにフォーカス合わせ、キリストを喜びましょう。キリストが与えられてよかった。本当にそうでなければ自分の過去に囚われて、今現在誰かのせい、何かのせい、自分はダメだ... こういうことに囚われて、その暗いトンネルから抜け出すことができなかつたはずなのに、キリストの光が与えられて感謝しますよと。何がどうであれ、一切構いません。キリストが答えなのです。だから神様は完璧なプレゼントを与えられました。皆さん、過去や自分自身の何かに囚われて縛られるところから自由になってください。本当にキリストでなければいけない罪人と認めてキリストを心から喜びましょう。

そして、言い訳などしないで、つぶやかないで、思い煩わないで、限界ある自分を素直に認めて、だからこそ自分を下ろして神のプレゼント、聖霊を喜んで待ち望みましょう。聖霊の豊かな注ぎがありますようにと。祈りましょう。神様はすごいプレゼントを与えていらっしゃるのに、信者の私たちが見向きもしません。人間的な表現で申し上げますと、神様はどんなに悲しいのでしょうか。すごいプレゼント、完璧なプレゼントを与えたのに、「あ、そっか」。それが私たちの問題です。他には問題ありません。どんな問題があるのでしょうか。神のプレゼントの方に目を移しましょう。その問題のゆえに、問題があるからこそ、問題に囚われずに、それを乗り越えられる神のプレゼントの方に行きましょう。

それから最後にイエス様がおっしゃいました。収穫は多いが、働き手が少ない。働きの手のために祈りなさいとおっしゃいましたけれども、もちろん祈るべきですが、自分が収穫の主人公になりますと決心しましょう。自分が収穫の主人公になります。なぜ神様からのプレゼントを全部他の人に譲って、自分は手を触れようとしなないのでしょうか。地の果てにまで収穫の主人公として証人にするとおっしゃっているのに見向きもしません。どこに興味があるのでしょうか。だから収穫の主人公になるという契約を握って、何を食べるか、何を飲むか、何を着るかの祈りを全部捨てて、神の国と義を求めて祈る、そういう祈りを決心する信者になりましょう。皆さんの残りの生涯は、神のプレゼントが目に見えるように輝く勝利ある人生になるでしょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今日収穫、感謝礼拝を通して神様からの最高の完璧なプレゼントのことを教えられました。どうか今まで他のことに気が散って、また囚われて、神からの最高で完璧で、それで十分なプレゼントなのに興味がなかったことを悔い改めます。今日限り、キリストを喜び、聖霊を追い求めて、そして収穫の主人公として残りの生涯を決心して祈るクリスチャンになるようにひとりひとりを祝福してください。残りの生涯、天のいのちの書に多くの収穫を収める伝道者としての生涯を歩けるように小さなレムナントから年寄りの方々にまで豊かに豊かに祝福し、メッセージが成就するように御座のキリストが働いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン